

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

		学校整理番号		特17	
		学 校 名		青森県立黒石養護学校	
		対象障害種別		視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱	

(1) 学校教育目標	子どもたち一人一人の能力や特性を生かし、自分の力で歩んでいける人間をはぐくむ				
------------	--	--	--	--	--

(2) 現状と課題	本校は、黒石温湯地区の山間にある南黒地区で知的障害者を対象とする唯一の特別支援学校である。在籍数は小学部23名、中学部14名、高等部15名の計52名の小規模校である。通学方法は自家用車を使用した保護者送迎及び、路線バスを利用した自力通学、福祉サービスの送迎等である。 校舎は市道から山間の坂道の登ったところにあり、校地内移動には安全面から十分な配慮が必要である。また、校地周辺が土砂災害警戒区域に指定されている傾斜地に立地していることから、特に冬期間は通学路の除雪や登下校指導に職員が関わり、児童生徒の安全対策に細心の注意を払いながら教育活動を推進しているところである。 一方で、地域に開かれた学校を目指し、様々な交流活動に力を入れている。周辺の幼稚園、小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習のほか、地域資源(地域の自然環境や公共施設、人材等)を活用した体験型学習を積極的に実施している。 高等部の進路指導も地域に開かれた学校づくりを推進する方針に則って行っており、黒石市の協力の下、運営している黒養ワークトレーニング社は今年度23年目を迎え、本校の特徴的な取組となっている。 数年内の、旧県立黒石商業高等学校跡地への移転が決定しており、これまで積み重ねてきた地域との連携を新しい環境でどのように繋げていくか、学校運営協議会を活用して「地域とともにある学校づくり」をどのように実現していくかということが課題となっている。				
-----------	--	--	--	--	--

(3) 重点目標	1 学習指導の充実と改善(「生きる力」を育む授業づくりの推進)				
	2 道徳教育、生活指導・保健指導の充実				
	3 キャリア教育・進路指導の充実				
	4 開かれた学校づくりの推進				
	5 専門性の向上・働き方改革				

(4) 結果の公表	職員による自己評価及び保護者による学校の教育活動についてのアンケートの結果とその対応等について公表する。 ・職員、学校運営協議会委員、保護者に配付する。 ・職員には職員会議で、学校運営協議会委員には学校運営協議会で、保護者には参観日の全体会で説明する。 ・学校ホームページに掲載する。				
-----------	---	--	--	--	--

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成				
学校運営協議会委員 8 名 ・大学教授 ・地域のライオンズクラブ代表 ・行政代表（地域の役場） ・保護者の代表（本校PTA会長） ・福祉就労の代表（本校元校長） ・地域住民の代表（陶工） ・地域住民の代表（地区の社会福祉協議会会長） ・本校校長				

自 己 評 価					学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	学習指導の充実と改善 （「生きる力」を育む授業づくりの推進）	①新学習指導要領の主旨を踏まえた指導内容と評価についての検討 ②小学部・中学部・高等部の12年間における一貫した系統性のある教育課程の編制 ③ICT機器を活用した授業づくり・実践	・清掃活動や流れ作業などの学習を通して、教師の指導だけではなく、生徒同士で話し合いをしながら気が付いた点、工夫する点、そして自分たちで気付きや理解を深められるよう授業改善に取り組んでいる。 ・系統性のある教育課程の編制については、掃除を取り上げ、小学部段階では、「お掃除コンテスト」として盛り上げ、学級ごとに成感が高まった。 ・県教委の事業を活用しながら外部講師を招いて授業の様子を参観していただき、ICTの活用方法や効果的な指導に関する知見を得ることができた。	A	・小学部、中学部、高等部設置校の利点を活かし、学部間での交流も大切にして欲しい。 ・情報教育の発展が目覚ましいので工夫して取り組んで欲しい。	・小学部から高等部まで、系統的な指導を通して、必要な資質・能力を子供たちに育むことができるよう、指導内容と評価の在り方について検討するとともに小、中、高等部縦割りの合同授業を行うなど学部間で連携を深める。 ・県教委の事業を活用しながら、校内におけるICTを活用した主体的、対話的で深い学びを目指した授業の充実を図る。	
2	道徳教育、生活指導・保健指導の充実	①礼儀正しく・思いやりにあふれる児童生徒の育成 ②事故等の未然防止に向けた校内体制と安全教育の推進 ③校内外の環境美化、食の指導と性指導、その他健康・衛生に係る指導の充実 ④新型コロナウイルス感染症を踏まえた教育活動の推進	・年度初めに挨拶の大切さを掲げ、全校集会ではあいさつ名人として児童生徒を取り上げ、称賛することで児童生徒の成長を促した。 ・避難訓練では煙体験を実施した。また、様々な災害を想定して非常時下校訓練やがけ崩れを想定した訓練も行い様々な災害に備えた。 ・食の指導と性指導の充実について、研修会の実施と給食の時間、講師の直接指導やアドバイスを受けて給食の大切さを実感した。	A	・児童生徒の挨拶がしっかりしている印象がある。社会に出る上で、相手の目を見て挨拶できるということはとても大切なことである。これからもしっかりと取り組んでほしい。 ・農業高校の先生や、食に関する指導、性に関する指導でも、講師に養護学校を知ってもらう良い機会だととらえて、増やしてほしい。	・年度初めに挨拶の大切さを掲げ、全校で継続していく。そして明るい学校づくりを目指していく。 ・次年度も性指導や食に対する指導についても思春期の大切な時期なので継続をしていく。 ・様々な訓練に対して近年の社会情勢や気候変動等を考えながら内容を検討していく。	
3	キャリア教育・進路指導の充実	①小・中・高の連携と一貫性のある系統的なキャリア教育・進路指導の推進 ②保護者、地域社会、関係機関等との連携による職業教育の充実	・進路だよりをタイムリーに発行することで、児童生徒及び保護者の情報提供に繋がり高等部卒業後の生活に対する意識の喚起につながった。 ・校内実習及び黒養ワークトレーニング社の取組では、地元の中生も参加し関係機関との連携に繋がった。	A	・進路だよりなど、早い段階からたくさんの情報提供はとてもありがたい。今後も情報について発信を続けてほしい。 ・人手不足の解消のために地域の企業で体験活動ができるか検討したらどうか。	・小学部や中学部の保護者を対象とした進路講演会を継続して行うなど、高等部卒業後の進路についての情報発信に努める。 ・産業現場等における実習及び校内実習などを、今後も地域社会の協力を得ながら実施していく。	
4	開かれた学校づくりの推進	①教育活動の情報発信 ・学校公開・学校HP・学校案内の充実 ・黒養ワークトレーニング社の周知 ②地域支援及び教育相談の充実 ・幼児・児童への教育相談活動の推進 ・関係機関との連携 ③地域の方々、学校との交流活動（居住地校交流も含む）の推進 ④児童生徒・保護者・職員・関係者の意見を取り入れた新校舎計画の推進 ⑤温湯・上山形・南中野地区との絆の深化、移転先（あけぼの町）についての探究活動	・学校ホームページによる積極的な情報発信に努めた。 ・学校公開及び「お山の学校であそぼう」を企画した。保護者、関係機関の方々が多数参加し、地域への周知と連携に繋がった。 ・学校間交流及び居住地校交流に当たって、概ね計画通り実施できた。 ・学校案内の充実では、地元の展示できる場所を借りたり、県の社教センターでも生徒の美術作品を中心に展示することで児童生徒の作品を広くアピールできた。 ・地域との交流では、小学部クリスマス会、中学部陶芸教室、ぶどう作業体験、灯籠作り、高等部は松の湯交流館での作品販売など各学部で充実した教育活動が実施できた。	A	黒養ワークトレーニング社について、会場の産業会館の工事は来月終了する。第二展示室や廊下の状態が変更となっているので、昨年度までと同じような形態でできるかどうか確認が必要だと考えられるので、早めにご相談いただきたい。 ・高等部の農業高校との交流では、将来農業に従事するかもしれない生徒が、養護学校の生徒と交流することで、養護学校を知ってもらうことは有意義だと考える。 ・地域への祭りへの参加も考えていただいてうれしく思っている。少人数でもよいので、ぜひ参加してもらいたい。 ・校舎移転に向けて、山形地区にお世話になった感謝の気持ちを伝える機会があると良いと思う。	・黒養ワークトレーニング社を黒石市産業会館で行うなど、引き続き地域社会との連携を大切にしながら実施していく。 ・「お山の学校であそぼう」は、好評をいただいていることから、年2回の開催とし、本校としての地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を高める。 ・地域の探求活動も含め、地元の活動へ積極的に参加できるよう計画する。	
5	専門性の向上・働き方改革	①校内研究・校内研修による実践的指導力の向上 ②衛生委員会等による職員の健康状態の把握	・校内研修を計画的に実施し、外部講師を招いて直接指導や助言を受けることで実践的指導力の向上を図った。 ・計画的に新任者研修を実施し、児童生徒の疾病・障害特性や健康状況、関係施設についての知見を高めた。 ・業務の効率化や精選に対する意識向上を図るために、月ごとに全教職員の時間外勤務時数の平均を伝えた。	A	・先生方の多忙感やなり手不足など、いろいろな問題があると思うが、黒石養護学校は、先生方の日々の成果が、学校評価にも表れていると思う。健康は大切なものという視点で、学校経営をしてほしい。	・学校評価の内容を見直し、分かりやすいものにする。 ・今後も業務の効率化や精選に対する意識向上を図り、健康に留意するよう促していく。	

(11) 総括	職員による学校評価では、全体の平均は昨年度と同じ値となっている。特に教育活動（教育課程）に関する項目は、昨年度に続けて軒並み向上していることから、児童生徒一人一人の障害の状態に応じた指導の充実に向けた、職員の意識の高まりがあると捉えることができる。また、相対的に個人情報管理や経理に関する項目の評価は高く、日頃から教育公務員として服務規律を遵守した上で職務を遂行している現れと考えられる。 保護者による学校の教育活動についての評価では、昨年度同様に全体を通して高い評価となっている。このことから、学校の教育活動に対して保護者からは、概ね理解が得られていると考えられる。				
---------	--	--	--	--	--